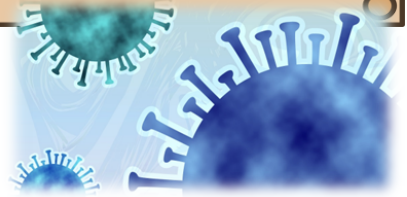


和地ひとみレポート No.443

新型コロナウイルス“第7波”

東大和市の感染者数、ワクチン接種の状況は…



■第7波到来だが…

…新型コロナウイルスについては、7月に入り、新規感染者数の増加傾向＝第7波の到来となりました。しかし、国においては今までのような“緊急事態宣言”や“まん延防止等重点措置”といった対処は行わず、いわゆる「行動制限のない夏」となっていますが、7月29日、都道府県が独自に「対策強化宣言」を出し、早期のワクチン接種など感染対策を強く呼びかける仕組み＝“BA.5対策強化宣言”の導入を政府が決定。

…この“BA.5対策強化宣言”は、「病床使用率が50%を超えるなど、医療機関への負荷の増大が認められる場合に、都道府県が独自に発出する」もので、具体的には都道府県は宣言を出した上で、早期のワクチン接種やテレワークの推進、高齢者や基礎疾患のある人の混雑した場所などへの外出自粛といった、感染対策を強く呼びかけることとすること。また、国は、宣言を行った都道府県に対し、感染対策の指導や助言を行うほか必要に応じて連絡調整にあたる職員を派遣するなどとしています。

…東大和市では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を受け『新型コロナウイルス感染症対策本部会議』を都度開催し、東大和市としての「基本方針」を発表。最新のものは、令和4年5月22日に開催した新型コロナウイルス感染症対策本部会議で決定したもので、第7波と言われた7月以降、市の「基本方針」は更新、発表されていません。

…なぜ、新たな市の「基本方針」が示されていないのかというと、基本的に市は東京都の様々な決定を受けたうえで、市としての方針を決定しているため。

前述の“BA.5対策強化宣言”を東京都は行っていないため、市の基本方針も更新できずにいます。

…以前は「コロナウイルスは都境、県境など関係なく広がるのだから足並みを揃えなければ…」としていたコロナ感染防止策でしたが、この“BA.5対策強化宣言”については、埼玉県、千葉県、神奈川県が発出しているのに対し、都知事は「効果を見極めて判断したい」としている状況です。

■東大和市の新規感染者の状況は

…東大和市の今年の月別新規感染者数と8月に入ってからの新規感染者数は以下の通り。

【2022年1月～7月の各月の東大和市の感染者数】

1月の新規感染者数	617人
2月の新規感染者数	2109人
3月の新規感染者数	1069人
4月の新規感染者数	719人
5月の新規感染者数	498人
6月の新規感染者数	269人
7月の新規感染者数	2762人

【2022年8月の日ごとの東大和市の感染者数】

8月1日	84人
8月2日	147人
8月3日	201人
8月4日	165人

…今、新規感染者の全数報告の必要性について、様々、議論されていますが、新規感染者数を把握するようになってから8月4日現在までの東大和市の累計感染者数は9,847人となっており、実に市民の11.57%が感染したことになっています。

…市内の小中学校は7月21日から8月24日まで夏休みなので、ひとまず安心ですが、7月に入ってから夏休み直前までは、多くの学校で児童、生徒のみならず、教師など大人の新規感染者も増加し、学級閉鎖が行われていました。

…一方、市内の保育園では休園する園も。この休園情報については市のHPで日々、公表されています。また、市内の病院、クリニックでも医師、スタッフに陽性者が出たことで10日間休診せざるを得ないところも出ている状況です。

■自宅療養者の状況は…

■都は自宅療養者への食料品配送を縮小

…最新の東大和市の自宅療養者等は以下の通り。

【8月4日時点での東大和市の療養状況】

入院中	宿泊療養	自宅療養	調整中	合計
84人	39人	1,336人	182人	1,641人

…東大和市では、新型コロナウイルス感染症と診断され、自宅療養を行っている方の不安軽減を図るため、下記の通り「食料品・日用品」を送る取組みを実施していますが、現在は1日あたり1000個ほど発送する日も出ているとのこと。

【東大和市の自宅療養者への食料品等の提供】

※市立保健センターに電話での申し込みが必要

◆対象者

- ・市内在住の方
- ・医療機関で新型コロナウイルス感染症と診断された自宅療養者等で市の支援を希望する市民の方（同居する濃厚接触者、宿泊療養や入院の調整で自宅待機中の方を含む）
- ・東京都からの食料品の配送支援やパルスオキシメーターの貸与を受けていない方

◆支援内容

- ・3日分のレトルト食品等を1人1セット
- ・消毒用アルコール、マスク、ティッシュペーパー等を世帯に1セット
- ・必要な場合はパルスオキシメーターの貸与

（裏面に続く）

…一方、東京都が実施している自宅療養者向けの「食料品配送」は、対象者を7月26日正午から縮小。これは、感染拡大に伴う自宅療養者の急増を受けたもので、変更後の対象者は、「同居人や知人から買い物の支援を受けられない人」、「インターネット通販などで食料品の調達が困難な人」のみに限定されるとのことです。

…東京都では、第6波の際は1週間に9万6,000食を自宅療養者に配送していたとのこと。そして、感染拡大に伴って11万食まで対応できるようにしたとのことですが、第7波による感染拡大のペースに支援体制が追い付かなくなったため、縮小したとのこと。

…幸い、東大和市独自の自宅療養者への食料品等の配送は継続しており、かつ、従前より東京都からの支援の有無に関わらず対象としています。(よって、東京都からと東大和市の両方の支援を受けている自宅療養者が多くいます) 近隣自治体では、東京都からの支援を受けている人以外を対象としているところも。そのような自治体は、東京都の支援があることを前提とした予算としているのではないかと思います。東大和市では、この支援については、一定の増加を見込んで補正予算を組んでいるため、対象を縮小せずに継続するとのこと。

■ワクチン接種率は

…今回、国が導入した“BA.5 対策強化宣言”の取組例にあるように、第7波においては、基本的には個人が感染防止対策を徹底することが中心で、各自治体(≒東大和市)は、ワクチン接種率の向上促進に努める以外、具体的な対策は打てないと思います。

…その取組みとして、東大和市のワクチン集団接種会場(旧みのり福祉園)では、事前の予約が難しい方のため、「予約なし接種」を実施。(対象者や接種可能日時は市のHPで確認ください)

…この取組により、予約なしでの接種者が1日に50人近くになった日もあるとのこと。効果は出てきているようです。最新の東大和市の8月4日現在のワクチン接種率は1回目81.0%、2回目80.4%、3回目62.3%。3回目の接種率が1回目、2回目と比較して約20%低い状況ですが、同じく8月4日現在の東京都全体の3回目接種率も63.2%(対全人口)。東大和市の3回目ワクチン接種率は、都のほぼ平均的と言えます。…諸外国に比べ、まだ、新型コロナウイルスに対する新たな“付き合い方”が決定していない日本。当分、市として出来る限りの対策を進めていくしかないのが実情だと思います。



工夫を凝らして新しい形で再開 “第52回 ふれあい市民運動会” 健幸都市宣言に即した事業に

…毎年、9月の最終日曜日に上仲原公園野球場で開催されていた“ふれあい市民運動会”。この運動会は昭和45年から開かれている行事です。実は、この“ふれあい市民運動会”はコロナ禍になってから中止が続いているだけでなく、コロナ禍以前の平成30年は台風により中止、平成31年は雨天によりグラウンドの状態が悪いため中止に。そのため4年間開催できていませんでした。

…“ふれあい市民運動会”は、地域ごとで得点を競うなど、地域の人とのふれあいや親交を深める行事として発展。自治会ごとにテントを設け、様々な競技に地域の代表選手を選抜し、応援し、昼食を一緒に食べるというものでした。

…近年は、参加自治会の減少とともに、自治会加入者の減少なども影響し、いくつかの自治会を組んだチーム構成とし、合計得点で競うのではなく、競技ごとの順位付けや表彰などの形を取ってきました。

…前述の通り、悪天候等とコロナ禍で中止が続いた“ふれあい市民運動会”の中止前、平成29年に開かれた運動会の参加者は約2,000人。

しかし、最盛期と比較するとこの参加人数は少なく、参加者増を図ることが課題に。また、時代に即した内容を模索すべきという意見もあった中、コロナ禍となり中止が続いていました。

…以前は、企業でも運動会や慰安旅行などを行っていましたが、昨今では、そのような企業をあまり耳にしなくなりました。市の運動会も同様。時代に合った形にすべく、今年の実行委員会では様々な検討が行われたとのこと。そして、今年は自治会単位での参加ではなく、体を楽しく動かしたい個人でも参加できる形としたとのこと。さらに、会場も天候に左右されない体育館にしたとのこと。各競技、事前申し込み制とし、市報の8月1日号で告知し、参加を募っています。

…また、以前、このレポートでもお伝えしたように、市は少子高齢化や人口減少が急速に進展する中でも、持続可能な市政運営を行うために令和2年度に民間コンサルタントによる業務分析を実施。結果、99の事務事業の廃止・縮小を決定しましたが、この“ふれあい市民運動会”は『縮小』する事業とされています。以前は約300万円だった予算には、自治会に対する負担金(主に自治会参加者への昼食代)なども入っていましたが、今年度の予算は約150万円となっています。

…市制50周年を機に“健幸都市宣言”を行った東大和市。これからの“ふれあい市民運動会”の位置づけは、地域コミュニティ活性化から健康づくりに軸足を移して実施していくようです。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。『学校』の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP: <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102